

2003年3月20日

淀川水系流域委員会

委員長 芦田和男 様

宇治・世界遺産を守る会
代表世話人 須田 稔

天ヶ瀬ダム再開発・毎秒1,500トン放流と

宇治川改修の問題点一報告と要請その2

3月10日、淀川水系流域委員会へ、「天ヶ瀬ダム再開発・毎秒1,500トン放流の問題点について報告と要請」を送付したところですが、その後、宇治川改修に関わって、近畿地方整備局が、宇治市から意見書を受けた、あるいは塔の島河川検討委員会で検討し、すすめてきたと説明している工事計画が、住民から大きく批判されていること、あるいは変更を余儀なくされていることを報告します。

一つは、宇治川の宇治橋からすぐ上流の左岸に鵜飼い舟の係留施設をつくる計画が、地元住民の猛反対で工事が中断していることです。

3月2日付朝日新聞の京都版は「住民猛反発、工事とめた。源氏物語の景観守れ」の見出しで、「近畿地方整備局が宇治川で計画した鵜飼い舟の係留施設をつくる護岸工事に、近くにある平等院表参道の（桜町）町内会が、『歴史的景観が台無しになる』と反発、3月末完成予定であった工事は未着工のまま休止に追い込まれている」と報道。「1月下旬、地元の桜町町内会への説明会が開かれた。これで『はじめて知った』という地元は『対策委員会』をつくり、住民アンケートをやった結果、『風情豊かな平等院周辺の景観が台無し』『宇治橋からの眺めが観光客を和ませるのに、無駄な工事だ』など全世帯が『反対』回答を寄せたという。計画には、鵜飼いを運営する『宇治川観光通船』の船頭たちも『流れが一番急な場所で、船だまりができて誰も留めない』として反対する。」「計画を巡っては、景観や生態系を考えるため、『河川整備検討委員会』が00年にでき、係留護岸についても案を示していた。だが、地元などに説明はなかったという。」「こうした反発に、淀川工事事務所は住民の了解が得られない限り、着工しないことを決めた。」「町内会は対案作りを急いでおり、同事務所はこれを受けて計画を再検討する方針」と報道しています。

3月15日付京都新聞は、「淀川工事事務所は昨年12月、入札を行い、業者と契約した後、今年1月に地元桜町町内会で説明会を開催した。町内会は護岸工事を突然知らされたとして『宇治橋に近い場所に係留施設を設けては景観破壊につながる』『威圧感のある護岸には反対』などと反発。町内会の鵜船関係者からも、係留場所としては不向きとの意見が出されたという。同事務所は、計画を一時中止し、話し合いを続けることを決めた。栗原工務第一課長は、『市の

意見や【宇治川塔の島地区河川整備検討委員会】の検討結果から、地元合意は得られたものと思っていた。淀川水系の河川整備計画について議論中でもあり、話し合いを続けたい』としている。桜町町内会蓮華護岸対策委の関満代表は『昔は、ヨシが生え、川べりで遊べたのに、護岸工事で景観が損なわれてきた。市も源氏物語の町を標榜しているのだから、昔のような風情を戻してほしい』と訴えている」と報道しています。

「問題点と要請」

淀川工事事務所が、「市の意見を聞いた」、「河川整備検討委員会で検討した」といっても、そこに関係住民の意見が反映していない場合、それは住民意見を聞いたということにはならず、まして地元住民の合意を得ていることにはならないということでしょう。

歴史的景観を破壊するという批判とともに、鵜舟関係者からも係留場所としては不向きという根本的な批判を浴びている鵜飼い船の係留施設の計画は一体どこから出てきたのでしょうか。

近畿地方整備局や関係行政機関が、川は生きているという視点、そして環境・景観という視点が希薄な中でつくった計画は、根本から再検討しなければならないということでしょう。

二つ目は、「宇治川改修の一環として車田地区と隠元地区付近で予定していた宇治川の拡幅計画を取りやめ、堤防強化工事に方針を切り替えたことが17日分かった。」との3月18日付京都新聞の報道です。「宇治川の流量を毎秒900トンから1,500トンに増やすために、川幅が狭くなっている車田、隠元の両地区で右岸の堤防を最大30メートル、60メートルそれぞれ後退させ、川幅を約200mに広げる計画だった。」「淀川工事事務所によると、今年一月の国交省の専門家会議『淀川水系流域委員会』の最終提言を受け、河川拡幅より堤防強化を重視する方針に変更。隠元橋の架け替えに伴う一部拡幅工事以外は、従来の堤防を強化することで流量増に対応する。」と報道しています。

「問題点と要請」

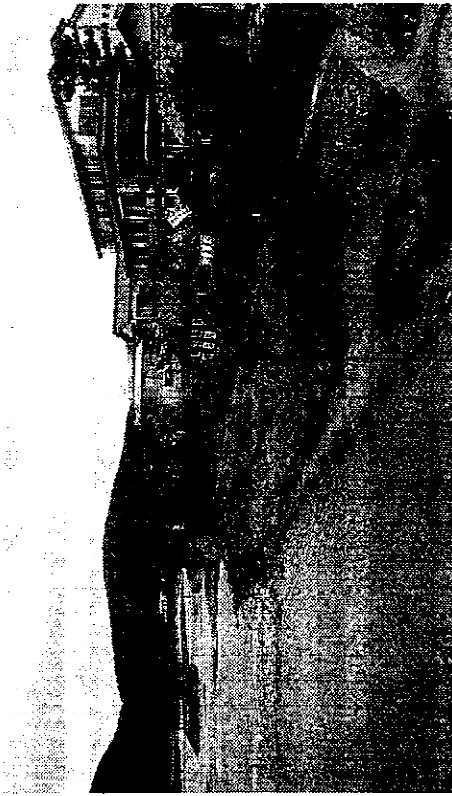
「最終提言」を計画変更の理由にしていますが、本当の理由は何なのでしょう。私たちとしては、堤防直近東側の宇治茶の茶園が削られなくて幸いであると思いますが。

それにしても30メートル、60メートルも川幅を拡幅する引堤計画が、拡幅しなくても堤防の強化で対応できるということ自体がそもそもの計画の根拠、そして堤防強化で対応できるという計画の根拠に疑問が起こります。

いずれにしても天ヶ瀬ダム再開発・毎秒1,500トン放流にかかわる問題です。いよいよ何のために毎秒1,500トン放流が必要なのか、1,500トン放流すれば宇治川と周辺の河川はどうなるのか、1,500トン放流のためにはどのような対策が必要となるのか、その工事費用はいかなるものとなるのか等々、すべてを徹底審議し、関係住民が納得できる審議結果を出すことが求められていると考えます。流域委員会での慎重かつすみやかな審議を要請いたします。

以上

係船護岸工事が計画されている宇治橋付近 宇治市で



源氏物語の景観守れ

国土交通省近畿地方整備局が宇治市宇治運草の宇治川で計画した鵜飼い船の係船施設を造る護岸工事に、近くにある平等院表参道の町内会が「歴史的景観が台無しになる」と反発、3月末完成予定だった工事は未着工のまま休止に追い込まれている。源氏物語「宇治十帖」ゆかりの宇治橋周辺でも唯一自然に近い護岸が残る場所で、住民は対策づくりを進めている。

宇治川護岸で計画

工事止めめた

工事は150年に1度の洪水にも対応できるよう、河床を1・1メートル下げ、宇治川改修の一環。「流れが速まり、鵜飼い船の運航が難しくなる」として上流の仮の係船場の移転が計画された。場所は宇治橋の上流、延長80メートルの区間で、切り立った石積み護岸を築き、18隻の係船施設を設ける。工費約6千万円で1月着工の予定だった。

1月中旬、地元の新町内会(46世帯)への説明会が開かれた。これで「初めて知った」という地元は「対策委員会(河川代表)をつくり、住民アンケートをした。「風情豊かな平等院周辺の景観が台無し」「宇治橋からの眺めが観光客を和ませるのに、無駄な工事だ」などと世帯が「反対」の回答を寄せたという。

計画には、鵜飼いを運営する「宇治川観光遊船」の船頭たちも「流れが一番急な場所で、舟まわりがきても誰も留め

住民猛反発

ない」として反対する。

こうした反発に、同整備局河川工事事務所(大阪府枚方市)は住民の了解が得られない限り、着工しないことを決めた。ダム建設を見直し、自然を保全する河川行政への転換が求められている背景もあり、着工を断念したという。

一方、町内会(対策)づくりを急いでおり、同事務所はこれを受けて計画を再検討する方針。

計画を巡っては、景観や生態系を考慮するため、市や学識経験者ら9委員で構成する「河川整備検討委員会」が00年にでき、係船護岸についても案を示していた。だが、地元などに説明会はなかったという。

市は「施工業者が決まってからの方が具体的な話ができる」と説明する。また、同事務所は「住民への説明は結果的には、早くすればよかった」と話している。

国交省「計画見直す」

町内会「対策つくる」

「宇治川の景観 台無しに」

蓮華地区の係船施設計画

地元反対で建設中断

淀川工事 話し合い継続

国土交通省淀川工事事務所（大阪府枚方市）が宇治橋上流の宇治川左岸に計画していた鵜船などの係船施設の建設工事が、「宇治川周辺の景観が台無しになる」と地元町内会の反対を受け、中断している。工事事務所は、業者との契約を打ち切り、本年度中の着工を取りやめた。一方、町内会は商店会とも協力して対策委員会を結成。今月中に独自の建設案を作り、市などに提案する考えだ。

計画では、宇治川河床の掘り下げ、流量を毎秒九百トから千五百トに増やす改修工事の一環として、同市宇治の蓮華地区の護岸工事を約六千万円で実施。鵜船や観覧船十二隻を係留できる施設を新設する予定だった。

工事事務所は昨年十二月、入札を行い、業者と契約した後、今年一月に地元の桜町町内会（四十五世帯）で説明会を開催した。町内会は護岸工事を突然知らされたとして「宇治橋に近い場所に係留施設を設けては景観破壊につながる」「威圧感

のある護岸には反対」となると反発。町内会の鵜船には不向きとの意見が出た。関係者からも、係留場所



地元町内会の反対で工事が中止になった宇治川左岸・蓮華地区の係船施設建設予定地（宇治市宇治）

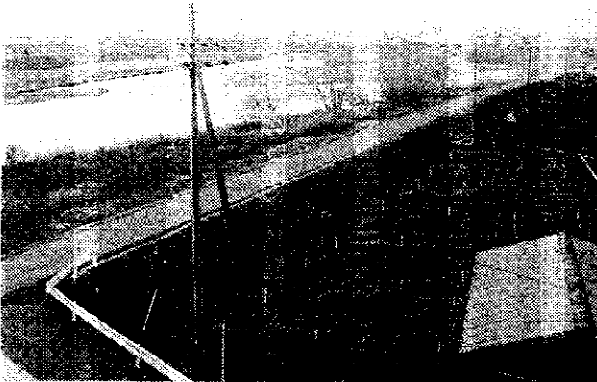
されたという。

同事務所は、計画を一時中止し、話し合いを続けることを決めた。栗原正剛工務第一課長は「市の意見や『宇治川塔の島地区河川整備検討委員会』の検討結果から、地元合意は得られたものと思っていた。淀川水系の河川整備計画について議論

論中でもあり、話し合いを続けたい」としている。桜町町内会蓮華護岸対策委員の関満代表は「昔は、ヨシが生え、川べりで遊ぶたのに、護岸工事で景観が損なわれてきた。市も源氏物語の町を標榜しているのだから、昔のよな風情を戻してほしい」と訴えている。

宇治川右岸の「引堤」計画取りやめ

国土交通省、天ヶ瀬ダム再開発見直して



宇治川右岸での引堤工事が見送られることとなった現場。堤防東側に茶園が広がる

昨年12月に近畿地方整備局がまとめた同水系の河川整備計画素案で、天ヶ瀬ダムの放流能力の毎秒1500トンへのアップについても「既存施設の改造などを含めて再開発の見直し」が具体的整備内容に盛り込まれ、再開発事業の柱となっていたトンネル式放流設備の計画見直しを示唆され、放流アップに対応するため、この間、ダム下流の宇治川で改修が進められてきた事業についても見直しが行われることになった。宇治川改修では、河床の掘削、護岸強化、引堤の実施などが進められてきており、隠元橋付近で行われている引堤については「継続実施」が盛り込まれたが、菟道車田地区で計画されていた延長440メートル、最大幅30メートル規模の引堤計画は計画から取り外されている。

計画通り実施されると、現堤防の直近東側に位置する茶園を中心

宇治市議会予算特別委員会(金ヶ崎三千彦委員長、16人)は17日、建設部ならびに都市整備部の部局審査に入ったが、この日の質疑で、国土交通省近畿地方整備局が天ヶ瀬ダム再開発計画の見直しを含めた淀川水系河川整備計画の策定を進めているが、宇治川右岸の菟道車田地域で、昭和46年に国が策定した「淀川水系工事実施基本計画」に基づき計画していた川幅の拡大をするための引堤工事は実施しないことを市が答弁で明らかにした。20日に近畿地方整備局淀川工事事務所が地元の要請に応じて「南部第一公会堂」で開催する説明会のなかで詳細について説明が行われるが、引堤工事に代って堤防の強化で対応することになる。藤田稔委員(新世会)がこの問題を取りあげた。

宇治市議会予算委で、市答弁

昭和46年に計画地元測量終える

「堤防強化」の方向に今回変更

とした用地買収が発生する。

同委員は「平成7年には地元測量が実施された」と述べた。

国土交通省との交渉にあたるべきだと考へる」と質問した。

川端助役は「引堤問題は、国交省に説明責任があると考えている。損害発生行為があるとすれば、市としてできることは、やっつけて」と答えた。

発行所 © 洛南タイムス社
 〒624-8501 宇治市宇治一丁目26番地
 TEL(0774)22-4109
 FAX(0774)20-1417

Refine リファイン大久保
 リファイン大久保
 〒624-8501 宇治市大久保北ノ山650-3
 ☎0774-483888
 リファイン城陽
 〒624-8501 宇治市城陽南水70-1
 ☎0774-675567
 平和住宅建設株

洛ワイインターネット
 ホームページ
 www.rakutai.jp
 e-mail
 info@rakutai.jp

宇治川拡幅取りやめ

京滋バイパス、隠元橋付近

堤防強化へ方針転換

流量増加1500トンに対応

国交省淀川事務所

国土交通省淀川工事事務所(大阪府枚方市)が、宇治川改修事業の一環として、京滋バイパス(車田地区)と隠元橋(隠元地区)付近で予定していた宇治川の拡幅計画を取りやめ、堤防強化工事に方針を切り替えたことが十七日、分かった。

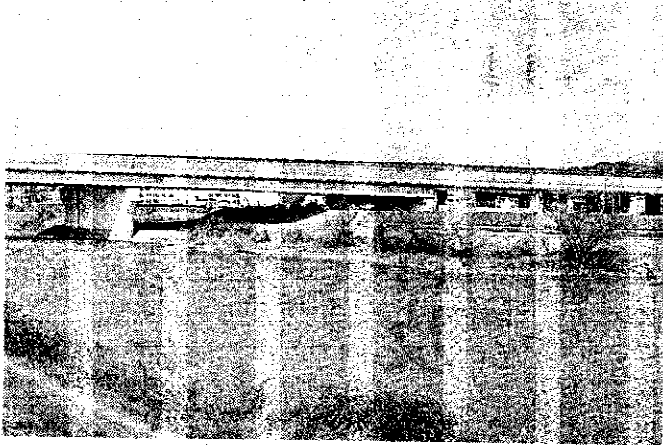
改修事業は、治水対策となっている車田、隠元の約二百メートルに広がる計画だったが、右岸の堤防を最大約三十センチ、六十センチ増やすため、川幅が狭く、それぞれ後退させ、川幅を

約二百メートルに広げる計画だった。さらに、宇治橋上流の

塔の島付近では、川底を約一・一メートル掘削することを予定している。

同事務所によると、今年一月の国交省の専門委員会「淀川水系流域委員会」の最終提言を受け、河川拡幅より堤防強化を

重視する方針に変更。隠元橋の架け替えに伴う一部拡幅工事以外は、従来「判断したい」としての堤防を強化することで流量増に対応する。栗原正剛工務第一課長は「宇治橋上流の掘削工事は、同事務所は、車田地区の工事について、二十日夜、同市五ヶ庄で地元説明会を開き、計画変更について報告する。



堤防を後退させ河川の拡幅が計画されていた宇治川右岸の車田地区(宇治市)